

平成 29 年度「みんなの幸せづくりをすすめる研究会」第 2 回オープンミーティング 報告書（平成 29 年 9 月 13 日）

場所	茨城県立健康プラザ	参加社協	日立市、龍ヶ崎市、常陸太田市、笠間市、牛久市、鹿嶋市、守谷市、常陸大宮市、那珂市、坂東市、小美玉市、大洗町、大子町	参加人数	30 名	ワークの目的・進め方	<p>《ねらい》計画策定や行政との連携強化における、各市町村の課題を共有するとともに、課題の共通化をし、今後検討が必要なことについて整理する。</p> <p>《準備物》ペンセット、ふせん（7.5×7.5cm）、A3 サイズ用紙</p> <p>《進め方》1 グループあたり 4・5 名程度にグループ分けをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介、役割決め 2. 第 1 段階：自社協の活動計画の策定状況と行政とのパートナーシップ（連携）の状況の紹介（グループ内作業） 3. 第 2 段階：グループ内で紹介された課題の整理（活動計画・行政との連携） <ul style="list-style-type: none"> ①他に伝えたいイトコロ②共通する課題③②の中でも解決が難しそうなこと 4. グループ発表：①～③の内容について、各グループでまとめた結果を、全体に向けて発表する。
役割	<p>発表者（常陸太田市）社協（多賀谷）氏・（菊池）氏</p> <p>聞き手（笠間市）社協（片岡）氏・（牛久市）社協（中村）氏</p> <p>ファシリテーター（那珂市）社協（浅野）氏</p> <p>記録者（常陸大宮市）社協（大久保）氏・（県）社協（曾我）</p>						
研究課題・テーマ	<p>（今回の発表事例が選ばれた経緯）</p> <p>・少子高齢課の進行により「生活支援体制整備事業」や「我が事丸ごとの地域共生社会づくり」等、地域住民と共に暮らしやすい地域を作るための取り組みが事業化されている。住民主体で地域づくりを推進していくために必須となる「行政との連携」、「地域福祉活動計画策定の課題について、常陸太田市における取り組み事例を基に検討する。</p>						
取り組み事例の概要	<p>☆常陸太田市社協の活動計画策定プロセス</p> <p>行政との良好な関係により、地域福祉活動計画を地域福祉計画と合同で策定した。活動計画を、市民＝支部の活動指針と位置付け、支部ごとの計画を策定した。コア会議・作業部会・調整会議、策定委員会の全てで、行政と社協が一体的に取り組んだ。特に互いに多くの部署の職員が関わることで、ヨコのつながり（互いの顔が見える）も…。コミュニケーションツールとして定期的な集まり（飲み会）は大いに役立った。また、19 地区の支部長の連絡・交流会（親睦会）を実施したことにより、支部長の本気度が UP。計画づくりによって、行政と社協のつながり、地域の福祉力が強化された。</p> <p>課題は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①担当者レベル（人：人）だけでなく、組織としての連携を継続してゆくことが重要だが…行政担当者は、3～5 年で異動する。後任者との人間関係によっては？ ②地域の活動を恒常化するため（絵に描いたもちにしない）の働きかけを続けること 					発表内容	<p>☆各グループの発表内容は以下のとおり。</p> <p>[1G]①地域担当職員制度をとっている。（守谷市） ②行政と社協の建物が近いとよい。 ③発表なし。</p> <p>[2G]①行政(各部署)，社協が地域助成金情報を共有している。 ②活動計画から社協が見えにくい。 ③発表なし</p> <p>[3G]①市民の声が活動計画に反映されている。②職員間の共通認識がされている。</p> <p>③住民，行政のキーパーソンを見つけること。</p> <p>[4G]①地区座談会の実施により，住民の声を反映した活動計画が出来た。社協各グループ（課）内で誕生会を実施することで，社協内のつながりをつくっている。 ②タテとヨコをつなげること。担当者以外の共通理解を図る方法 ③人と人とのつながりのつくり方</p> <p>[5G]①計画策定には座談会実施が有効。②行政担当者が異動しても連携を維持すること。③日常の社協活動に活かせる活動計画を作ること。</p>
質疑応答の結果	<p>《すすめ方》牛久市社協 中村氏が会場の参加者に呼びかけるかたちで、様々な声を引き出した。</p> <p>Q1:行政とパートナーシップをうまくとっているところはあるか？</p> <p>A1:守谷市/市役所で地域担当職員制度を設けており、社協と連携をとることがある。</p> <p>A1:常陸大宮市/生活支援体制整備事業を機につながりできた。</p> <p>—結局「人」でしょうか。</p> <p>Q2:行政とパートナーシップをとるのに苦労しているところはあるか。</p> <p>A2:日立市/市役所福祉関係課同士が縦割りなので、苦労している。しかし、今年度から市役所職員が社協に派遣され、その方がパイプ役となり、連携が取りやすくなった。</p> <p>A2:大洗町/生活支援体制整備事業をすすめていくうえで、少しずつ協力体制ができた。平成 28 年度から町役場と一体的に計画を策定しており、一人ひとりの職員が意識する仕組み作りは必要だと感じている。</p> <p>Q3:計画に対する、職員間の共通理解は？</p> <p>A3:常陸太田市/それについては、まだ課題である。計画の存在を意識してもらえるよう、会議の際に呼びかけている。</p>					アドバイザーコメント	<p>《長谷川アドバイザー》</p> <p>社協職員が、交流を深めながらヒトを磨くことが大事。</p> <p>《外岡アドバイザー》</p> <p>コミュニケーションのとり方，ヒトのつながりが一番難しい。</p> <p>『元氣』『根氣』『やる氣』を持って頑張ろう！</p>
						事例発表者コメント	<p>《常陸太田市・多賀谷氏、菊池氏》</p> <p>行政との一体的計画策定，全地区で市民計画策定を進めるためには，行政や支部とのつながりづくりを進め「理解と共感」が必要でした。活動計画づくりは，地域福祉活動そのものです。今後は計画づくりで築いたつながりをいかに広げるか，強くするかが課題です。</p>
						ファシリテーターコメント	<p>《牛久市社協・中村氏》</p> <p>これからの地域づくりは、地域・行政・社協が一体となり進めることが重要だと改めて確認した。</p> <p>《笠間市社協・片岡氏》</p> <p>生活課題への支援（丸ごと）のためには、行政福祉部局以外との連携が必須である。現状、笠間市では、点一点（個人）のつながりであるため、組織的な連携をすすめることが課題。</p> <p>《那珂市社協・浅野氏》</p> <p>市町村社協内だけの計画策定、連携強化は進めづらい。県内社協が連携し情報共有しながら進めることで、より活動が広がるのではないかと改めて感じさせられた。</p>